

IPM実践指標（麦類）

管理項目	管理ポイント
抵抗性品種の作付	縞萎縮病、赤かび病に抵抗性が強い品種を作付けする。
健全種子の使用	種子更新を行い、赤かび病、黒穂病、斑葉病等の無発病圃から採種された種子を用いる。
種子消毒	種子消毒を行う(黒穂病類、斑葉病)。
適正な播種と肥培管理	適正な播種量で播種するとともに適正な肥培管理を行い、過繁茂、軟弱な生育にならないようにする。
病害虫発生予察情報	病害虫防除所が発表する発生予察情報を入手・確認し、適期防除を行う。
赤かび病(かび毒)対策	麦の出穂期の把握に努め、適期に薬剤防除を行う。
	収穫期以降の蔓延防止のため、適期に収穫を行い収穫後は速やかに乾燥する。
	罹病残渣は圃場内から除去するか、圃場内にすき込む。
雑草対策	機械除草など農薬に頼らない除草を実施する。
農薬の使用全般	十分な薬効が得られる範囲で最小の使用量となる最適な散布方法を検討した上で使用量・散布方法を決定する。
	農薬を散布する場合には、適切な飛散防止対策を講じた上で使用する。
	農薬を使用する場合には作用機作の異なる農薬をローテーションで使用する。さらに、当該地域で薬剤耐性・抵抗性の発達が確認されている農薬は使用しない。
作業日誌	病害虫・雑草の発生状況、農薬の散布履歴、IPMに係わる栽培管理状況を作業日誌として記録する。